



経済という意欲と欲望

令和7年9月18日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

経済は富という渴望における永続を有する。これらが資本主義と自由経済システムにおける現実である。

これらは時代トレンドとともに、現実の形成を与える。経済は必ず社会と国家、世界における根幹である。

これらが富という渴望においてその判断を有することは理解できるものである。そしてそれが経済の原動力なのである。

これらはデジタル経済への移行において、それら新たな経済の枠組みへの転換を行うものである。

しかしこれらへの考察は、人類の経済という生存における要求への矛盾を与えるものである。

富という基準と判断は、明らかに経済における基準であり、それらにおいて経済活動とシステムが存在する。

しかしこのマネーゲームという現実には、豊かさを必ずしも与えるものではない。

これらにおいて経済システムへの新たな考察は、富という現実に対する判断を求めることができるものである。

生存と競争という人類の根本的な欲望に対して、自らの進歩は、新たなシステムへの移行を模索することは可能であると考ええる。

これらは哲学における人類の進歩への正しい判断とその理想という新たな未来への正しい考察と提案である。